

第2次総合調査について

総合調査の目的

茨城県内の自然誌に関する資料および情報の蓄積を図り、茨城県の自然誌科学発展のための基礎資料とする。

そして茨城県の自然の全体像を明らかにすることを目的とする。

総合調査実施の方法

茨城県を4地域に分け、各地域を3カ年かけて調査を実施する。

〔第1次総合調査〕（平成6～8年度）

筑波山・霞ヶ浦を中心とする県南部地域の自然

〔第2次総合調査〕（平成9～11年度）

鶏足山塊・潤沼・県央海岸を中心とする県央地域の自然

〔第3次総合調査〕（平成12～14年度）

阿武隈山地・県北海岸を中心とする県北東部地域の自然

〔第4次総合調査〕（平成15～17年度）

鷲子山塊・久慈川を中心とする県北西部地域の自然

第2次総合調査の内容

〔地学分野〕

- ・調査地域全般における関東ローム層
- ・調査地域内の微気象（海陸風）
- ・調査地域全般における化石
- ・那珂川・潤沼周辺における堆積相
- ・鶏足山塊を中心とした八溝層群の岩石鉱物鉱床

〔植物分野〕

（維管束植物）

- ・茨城県央地域山地の維管束植物
- ・茨城県央地域および南部地域海岸の維管束植物
- ・潤沼および周辺の維管束植物

（非維管束植物）

- ・茨城県央地域海岸の海藻類
- ・潤沼の珪藻類、微細藻類
- ・茨城県央地域山地および海岸クロマツ林の地衣類、大型菌類、蘚苔類

〔動物分野〕

- ・潤沼周辺および鹿島灘の鳥類
- ・潤沼の魚類
- ・潤沼周辺の昆虫類
- ・茨城県央地域の土壌動物
- ・鹿島灘の海産魚類
- ・茨城県央沿岸域の海産無脊椎動物

表1. 第2次総合調査委託者.

分野	調査委託内容	委託者
地学	鶏足山塊を中心とした八溝層群の岩石鉱物鉱床の調査	阿武隈山地岩石鉱物調査会 代表 田切美智雄
	調査地域全般における化石および那珂川・潤沼周辺における堆積相の調査	成田層研究会 代表 大原 隆
	調査地域全般における関東ローム層および微気象に関する調査	茨城地学会 代表 蜂須 紀夫
植物	調査地域における維管束植物の植物相に関する調査	茨城維管束植物調査会 代表 鈴木 昌友
	調査地域における海藻類、珪藻類、微細藻類、地衣類、大型菌類、蘚苔類の植物相に関する調査	茨城非維管束植物調査会 代表 中庭 正人
動物	潤沼および潤沼周辺における鳥類、魚類、昆虫類の動物相に関する調査	茨城動物研究会 代表 廣瀬 誠
	調査地域における土壌動物相に関する調査	茨城の土壌動物調査会 代表 田村 浩志
	調査地沿岸域の鳥類、魚類、海産無脊椎動物の動物相に関する調査	茨城の海産動物研究会 代表 森野 浩

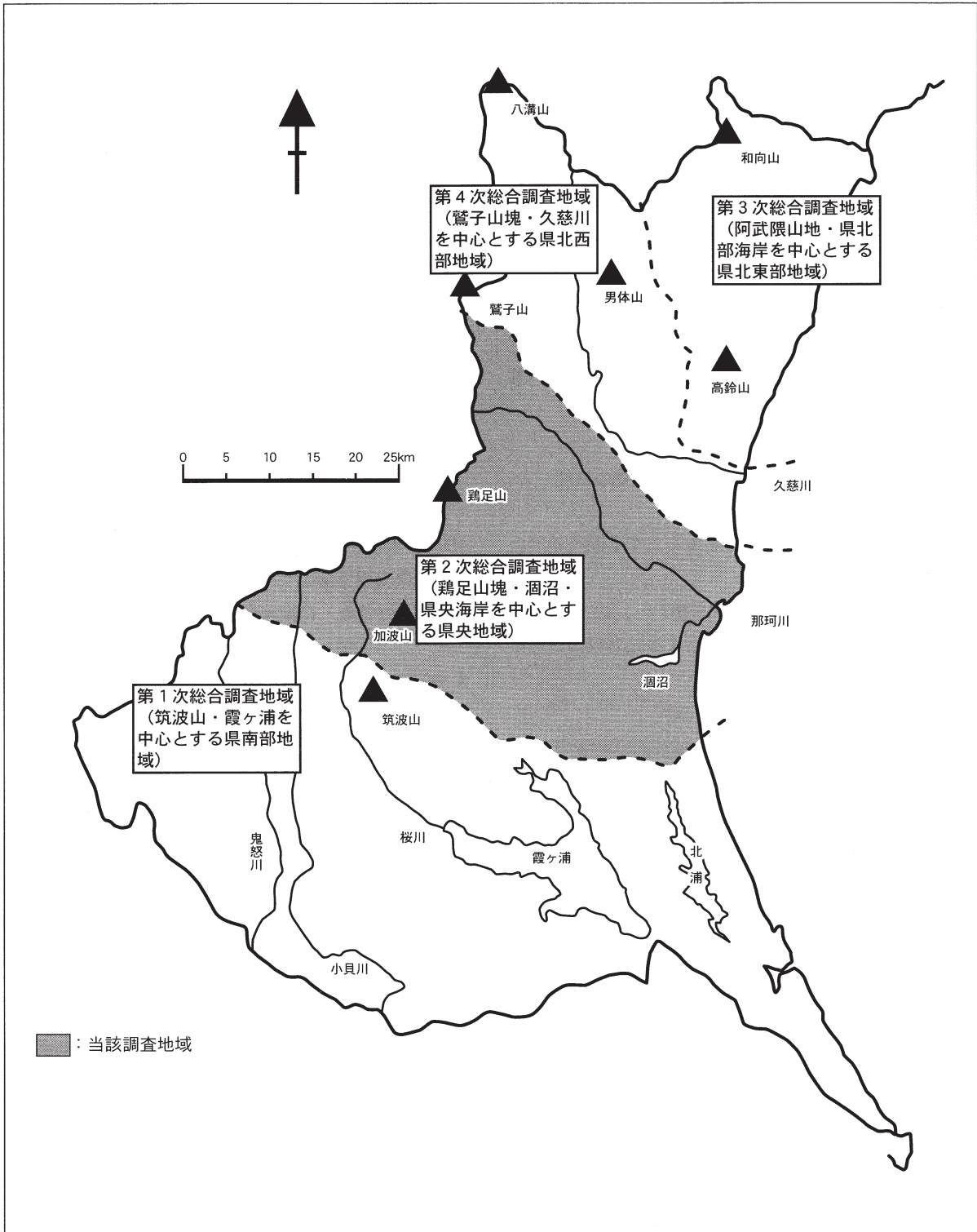


図1. 調査計画図.

地形概要

本地域は地形からみると、太平洋沿岸地域から那珂川・酒沼川下流域にかけて広がる洪積台地とその谷を埋めている沖積低地、筑波山地の北半分を占める真壁～笠間地域、そして那珂川中流域に分布する鷄足山地の山々の3つの地域に区分される(図1)。

那珂川下流域及び酒沼川中・下流域には鹿島台地・行方台地・東茨城台地・那珂台地などの洪積台地が広がり、谷を埋めて分布している沖積低地とともに関東平野の一部となっている。

海岸は、南部は鹿島灘から続く砂浜海岸が広がっているが、大洗・那珂湊付近では堆積岩類が露出し、岩

礁海岸となっている。

真壁～笠間地域には加波山(709 m)、難台山(553 m)などの峰を中心に、花崗岩からなる、ややなだらかな山地が分布している。この地域には、山腹に花崗岩(御影石)を採掘した採石場(跡)が多数残っている。

一方、那珂川中流域には、鷄足山(431 m)を中心に、砂岩や泥岩、チャートなどが広く分布し、急峻な地形からなる鷄足山地となっている。この山々は北には鷄子山地へ、南には筑波山地と続く、八溝山地の一角となっている。

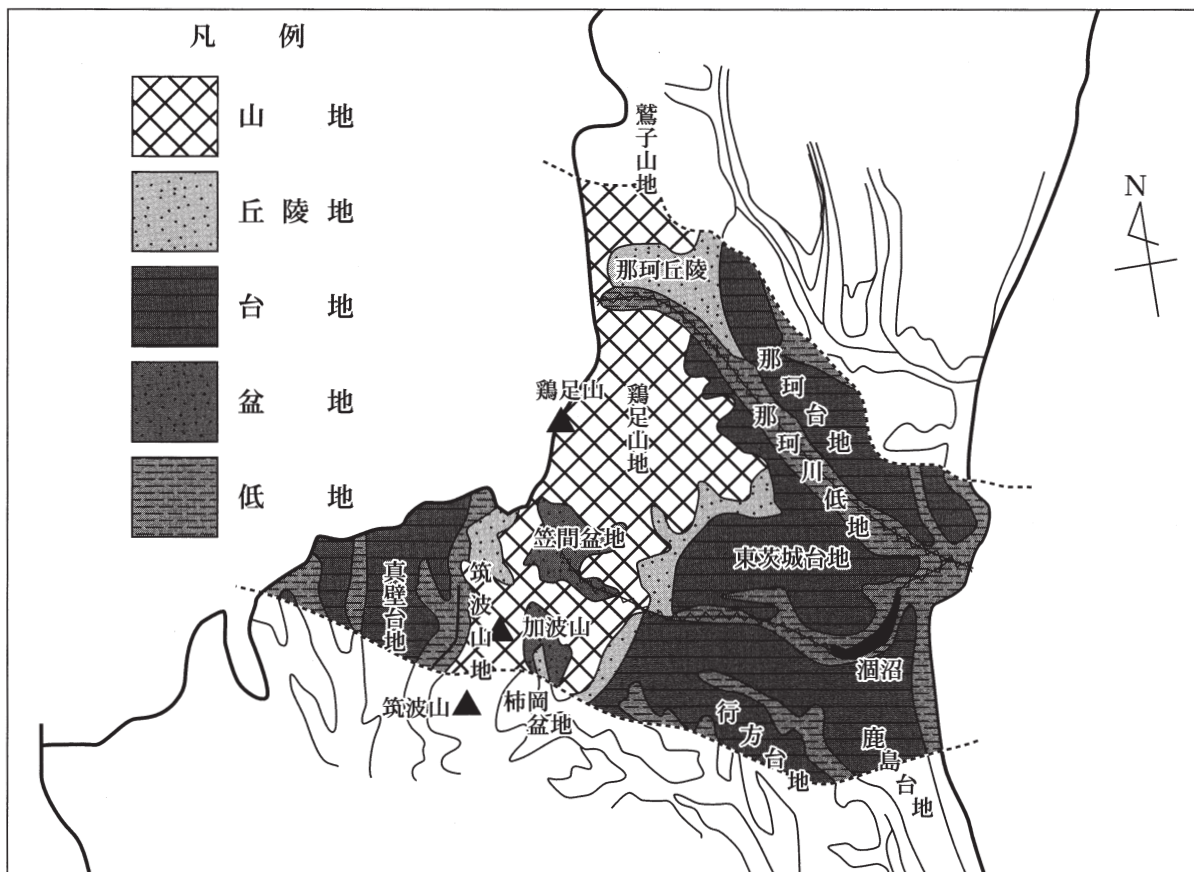


図1. 地形区分図.